

地域ネットワークニュース

～平成30年2月の勉強会のお知らせ & 1月の勉強会報告～

第241回 地域ネットワーク勉強会

「ジョブコーチを活用した障害者の就労支援」 ～就職活動から職場定着までの支援とその実際～

講師：荒井俊光 氏（主任就労支援員）

かしま障害者就業 生活支援センターまつぼっくり

2月23日(金)

午後7時～午後9時

神栖市保健・福祉会館
旧館1階 集会室B

ジョブコーチは、障害者が就労する際、本人の得意・不得意などの特性を職場へ伝えたり、障害者が円滑に就労できるように、職場内外の支援環境を整えたりする、企業と障害者の双方を支える専門家です。ジョブコーチの仕事は、単に「職場で仕事を教える」ということではありません。個々の障害者の特徴を捉えながら、就労後のフォローまで、職場と連携して支援する総合的な援助を展開しています。

近年では、障害者の法定雇用率の改正や障害福祉サービスの一つである就労支援事業所も増えたことにより、障害者の就労に向けての間口は広がりつつあります。これらの機会を最大限に生かすためには就職活動から就労後の職場定着に至るまで継続した支援と支援機関間の連携がとても重要となります。

今回の勉強会では、ジョブコーチの機能や役割、活用する際の手続きと支援内容、実際の支援活動で感じられたことなどを、具体的な事例を交えて詳しく説明していただきます。障害者就労支援事業所及び障害者計画相談支援事業所のスタッフ、障害者雇用に関心のある企業の人事担当の方など、就労支援に携わる方々の参加をお待ちしています。



※当日は勉強会会場内に情報提供・紹介コーナーを設けています。福祉や医療に関する事業所のパンフレットやチラシ、研修会案内などありましたら是非ご持参下さい。ご参加頂く皆様からの情報をお待ちしています。

申込・問合せ：神栖市社協 地域福祉推進センター 担当：三浦 電話 0299-93-0294



第240回 地域ネットワーク勉強会報告

平成30年1月31日開催

<参加者51名>

事例で学ぶ強度行動障害の理解と支援

講師：海老原朱美氏

【茨城県発達障害者支援センター（臨床発達心理士）】

今回の勉強会では、自傷行為や他害行為など、危険を伴う行動を頻繁に示すことなどにより日常生活に困難が生じる強度行動障害について、講師の豊富な実践事例から、行動の捉え方と対応の方法を学びました。

強度行動障害は生まれたときから行動障害がある人はいなく、積み重ねられた誤学習の結果として生じている行動といえます。また、コミュニケーションの苦手さや学習不足などにより、行動障害よりも楽に伝えられる方法や要求の仕方を知らない可能性もあります。そのため、注意や叱責では改善は図れないこと、課題となっている行動の背景には多くの要因が潜んでいることを理解し、行動と要因の両面に着目して支援を考える必要があります。

一度にいろいろな行動を改善することはできません。どこから改善していくか優先順位を決め、「いつ」「どこで」「だれに（何に）」「どんな行動（回数・頻度）」「どう対処したか」「本人にとってどのような結果になったか」を観察し、記録し、対処方法を考え、家族と支援者が統一した見解で対応することが大切です。支援はいろいろな方法が存在します。「あきらめない」こと、「一人で抱え込まない」ことが、本人の誤学習の改善につながります、と丁寧な記録と連携した対応の重要性が伝えられました。